WASON
HQ
1104
J74+

THE WOMAN'S MAGAZINE.

女學雜誌

明治二十年十月二十九日刊行

毎土曜日發兌
一冊正價五錢
府内無郵送税

第八十二號

東京 女學雜誌社

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

The Woman's Magazine.

(JOGAKU ZASSHI.)

No. 82. OCTOBER 29TH, 1887.

第八十二號

EDITORIAL:—On the Novel: No. 1. Morality of Novel Reading.

LEADING ARTICLES:—Influence of Mother upon their Children, by Senator M. Nakamura.

MISCELLANIES:—Japanese Literature: No. VIII; How to read the Biographies of past Heroines; A Proposed Girl's School in Japan.

CRITICAL NOTICES:—"Sampu-Biyo" (Advices to Conceived Women); "Kōsai-no-Shiori" (Guide of Social Intercourse); "Seiyo-Johan" (Womanhood).

BIOGRAPHIES:—Wife of Jiunai Onodera; A Soldier's Relieve.

NOVEL:—"Fragrant Rose": No. XV.

CORRESPONDENCES.

GENERAL NEWS.

ADVERTISEMENTS.

●社說　小說論第一(小說を讀む善惡の事)

●論說　母親の感化(中村敬宇君)

●叢話　和文學講義第八回(鈴木弘恭君)○婦人傳を讀むの心得○米國クエーカル信徒日本に女學校を新設せんとするの議

●批評　產婦備用○交際の栞○西洋女範

●佳傳　小野寺十内の妻○少妹兄の命を請ふ事

●小說　薔薇の香第十五回

●寄書　大坂一致女學校生徒文跋○女學校の論(巽多いさ)

●新報　三十件

●珊瑚の珠 (第四十一回)

○ジョンスチュアートミル曰く女子が男子に屈從するは世界一般の習慣なりしがゆへに此の習慣を脱するときは則ち之を不思儀とするあり

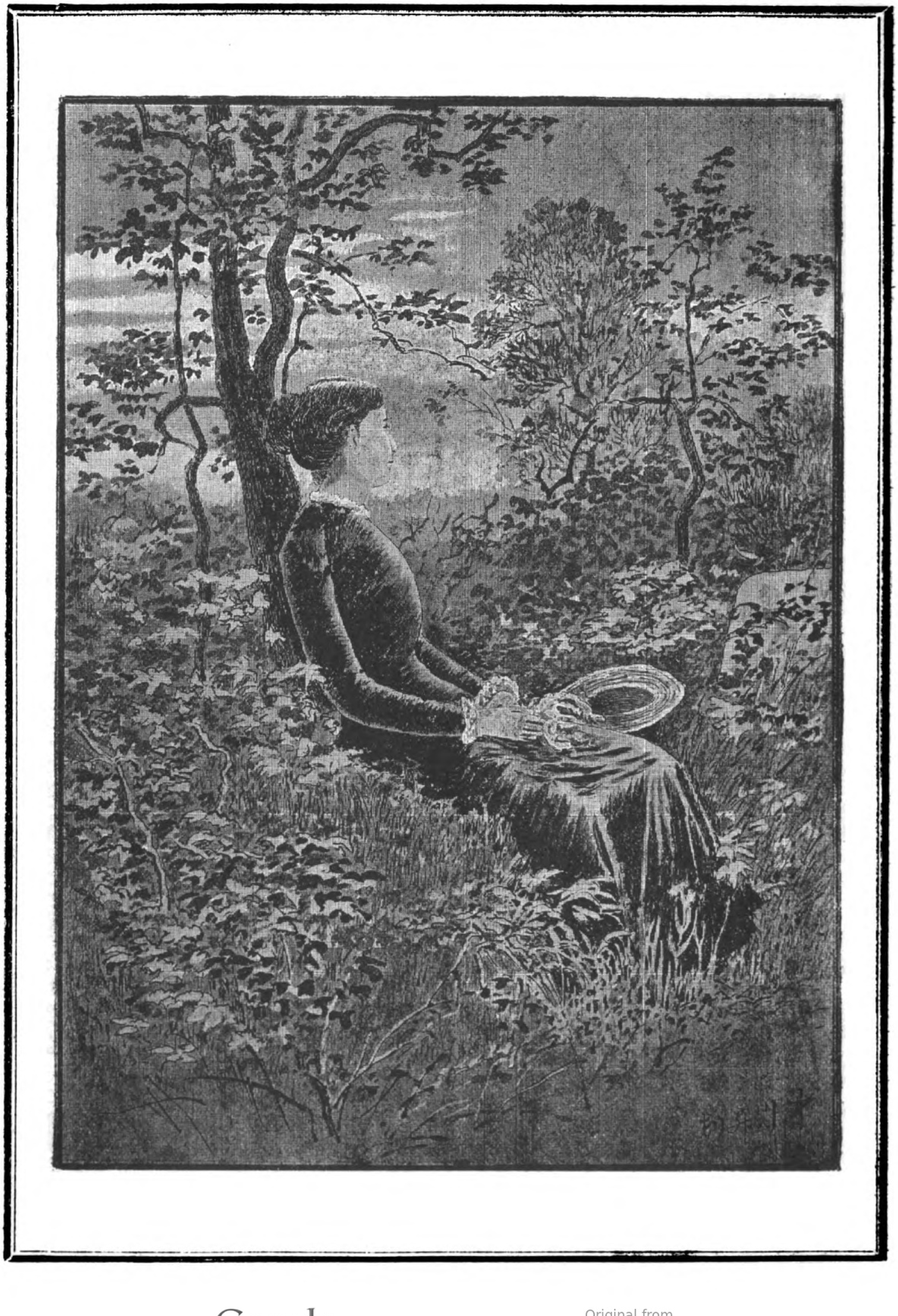
○又曰く佛人を英人に比較し愛兒蘭人を瑞西人に比較し希臘人伊太利人を日耳曼人種に比較せバ即ち女子と男子との相違するところを悟るべし而も此の相違ハ之に優劣あるにあらず各其の得たるところあるを示すもの也

○ハマトン曰く男子には美術上の力を非常に備具するもの往々にして之れあり然れども惣躰より之を許するときは此力あきものを多しとす之に反し女子には美術上非常の力を備具するは稀れなり然れども惣躰より之を許するときは何人も皆な大抵此の力を有するが如し

○レッケー曰く警察上の統計表によるに男子の罪を侵すは女子よりも多きこと五倍あり故に徳義上女性が男子に立優れるとは眞に明白至極の事なり

○心地常あらずたれこめて打ふしたる折ぞ人情世態の委曲にも通じ物のあわれも知るべし一生涯枕を取りたることあく無病壯健の人はすぐれたる賢者にあちでは少し心強き方にや落らん(北窓瑣談)

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY



女學雜誌第八十二號

明治二十年十月廿九日

● 社說

○ 小說論

（第一）小說を讀む善惡の事

西國の歷史家云へらく人若し第十五世紀を以て繪畫の時代なりと云ハゞ此の第十九世紀は即ハち稗史小說の時代ならんと寔に然り吾人もし亦た之に倣つて日本近年の形勢を評せバ過る明治十三四年の比ほひは蓋し所云る政治慷慨の時なり當今明治二十年前後の時代は即ハち小說流行の時勢なりと申さん抑も西洋に於て當世紀内に小說の殊に盛んと相成たるは彼のサーヲーターースカットが年來の習弊を脱して一種新調の小說を著ハし千八百年の曙と共に文學社會に燦然たる作り物の光彩を發したるを初めとして續いてバルエルリットンの博學雄壯なるウイリアムザッケレーの精妙周到なるチヤーレスヂッケンスの活達滑稽なる各皆な得意の才筆を揮つて人情世態の面白味を盡し稗史小說の讀むに尤も愉快なるものたるとを示したるに元因す、然るに我國近年の小說流行は其原づく所ろ果して何處にか在る而して其流行は元來文明と自由と國民の元氣との上に就て將た之を祝すべきか否や大に論辨を試みたきものあり。然れども女學雜誌は先づ此等全躰の議論を略して筆をその直接わが姉妹に關係する所ろの一部分内に歛めざるを得ざる也。

蓋し人情は事の或は自己の經驗する所ろに似るもしくは其の將に經驗せんとするところの者に似るときは特に喜んで之を聞くとを好む人の實歷傳記小說本等を見聞するとを喜ぶものは之が爲めなり、故にウエブスターの演說に欠伸するものも尙ほ洋行生の土產演說に耳を傾け大學教授の著書を冷視するものも尙ほ市に新聞記者列傳を三讀しリーダーの下讀に睡りを催す所の書生も尙ほ經國美談を讀んで圖らずも夜を徹するとあるなり。左れば小說作り物を好むは尋常普通の人情にして男女老少によつて有無の相違あらざるべしとは雖ども然れども若し之を嗜しむの情に於て其の淺深如何んと云はゞ其の念ひや少年は必らず老人よりも強く女性は大率ね男子よりも深かるべしと思ハるこれ共に其の感情の更に熾んなるが爲めなり、之を以て學校に學問する所ろの女生徒諸君及び齡ひ未だ二九に達せず婚緣尙ほ定まらざる妙齡若年の娘子達は小說を愛讀する第一の花客と云ふべし然るに此時代の女流生ひ立の

摸樣如何んは女學惣躰の進歩に對して最大一の關係あるものなるが故に凡そ小說の道德を論じ小說の改良を論じ小說果して人に益あるや否やを論定する如きは女學者が當に熱心に論辨すべきものと信ず。

斯て第一に起り來る問題は小說を讀むの可否何如んと云へるとなり、之に就ては或は余生れてより未だ小說を手にせず是れ一生の幸福ありと云ふものもあるべく又余平常稗史を好む之に依て人情世態の微を盡したるの得少からずと云ふものもあるべし而して右兩極を南北に置て中間に種々雜多の議論を立つ其の孰れか可あるは容易に斷定すること能はざるものあり、然るに一種極端に走つたる道德論者は之が說を作つて云ふ小說中の記事は元來實際に在らざるところのものあり此の實際に存せざる所の出來事に對して讀者を或は泣かせ或は喜ばす其の人を感動すると與に莫大なりと雖ども然もこの感動を生ぜしむるの度亦た實際に過ぐるが故に良心の涙と笑ひは殆んど空に向つて發散するものと云はざるべからず斯て一卷の幕引き畢つて讀者則ち元の如く倘ほ世間實在の悲むべく喜ぶべきものに對しては之を小說中假設の出來事に比較して感慨を寄するとは甚だ薄からんとす是れ實に道德上賛むべきものにあらずと云ふなり、此論一應は尤もと聞ゆる所あれども之を以て凡そ小說と云へるものを悉く退け去らんとするは眞に其の癖に走りたるものなり成程實際に立優つたる程の筆勢を以て何かの出來事を巧みに敍するものもあらん之が爲めに讀者が亦暴りに泣き暴りに笑つて均しく其の實際に過るの感動を起すともあるべし然れども斯る實際に外づれたる出來事と句調とを以て作りたる小說は吾人之を小說中の惡作ありと認むるとを承知せざるべからず斯る惡作の小說を手本として惣ての小說を讀むの不可なるとを斷ずるは猶ほ腐れたる飯を食べて米食の衛生に害あるを論じ半炊の剛飯を食して米の下痢を起すとを歎ずるに均し、故にもし斯る論法に據つて小說を讀むとを不可とするものあらば其人は遂に聖書中比喩によつて說法したる多きを見て之を道德に反するものと認ためざるべからざるに至る迂遠亦た極まるものと云ふべし。

然れども吾人は素と小說を讀むとを勸告するものにあらず只だ之を讀むとも差支へなしと云ふに止まるものなり然れども亦た何如ある小說をも讀んで差支へなしと云ふものにあらず凡そ小說として高等の價値あるもの及び社會の道德に對して不都合なきものに限りて之を讀むとも不可なしと云ふものあ

り。但し勸善懲惡をむき出しにして卷末半枚の間だに目出たしくの決局をつゝむる支那日本在來の小説は其趣向とする所ろ假令ひ善を勸むるに在りとも吾人は年少女子が之を讀むことを不可とするものあり亦た假令ひ温泉場の失策牛肉店の雜談を以て骨子とする「書生氣質」もしくは浮薄生意氣の男女を以て主人公とする「浮雲」の如きものと云へども苟くも小説として眞に高等の價値あらんものは年少女子が能く小説を讀むと云へる一つの覺悟を以て之を讀まん限りは吾人反つて之を見て不可と爲さゞるものなり」之を要するに吾人は小説を批評するの標準及び小説を讀むの覺悟に付て多少の意見を有す思ふにわが敬愛する年少の姉妹諸君にして此の標準と覺悟とを心に承知し玉はんには或はかの女流が小説を嗜しむの爲に惹起す一般の通弊を去り反つて之よりして幾多の利益を收むることを得らるべしと信ずるもの也。

●論説

○母親の感化（特別寄書）　中村敬宇

余時々文を草して嚴本氏編輯の女學雜誌に投寄するの約あり此頃氏來訪して之を乞はる然るに余近日事務殊に繁忙にして其需に應ずる能はず則ち曾て譯出したる西洋品行論中の數節を抄し之を以て少さか其責を塞ぐと云ふ

破拿崙第一世常に曰く小兒成長後の行狀の善惡は全くその母に關係すとナポレオン自ら其生涯を高處に提起するを得たるは其母の教養に頼れり蓋しその心志その自治むる事大抵家中に於て母の鞠養に由りて得たりと曰へり。其傳を作るもの又曰く人誰にてもナポレオンの上に在て彼れを指揮し訓導すること能はず獨り其母彼れを寵愛する心と嚴肅と公正との三者を調合するに由て彼れをして其母を愛敬し其教訓に聽順せしめたり彼は其母よりして順良の徳を學びたりと。

ワシントン十一歳にして弟五人ありしが是時其父歿して其母寡婦となり然るに此母は罕なる極善の婦人なり資財充足し、事務を做に長じ主事人となるの才あり其品行を確立し凛然として犯すべからざるの勢力ありけりワシントン以下の兒子を教育長養し鉅大なる家政を總理し井然條あつて紊れず廣大なる産業を管理し整然法あつて事能く享利せり其母見識好く慈愛深く謹愼にして心を職事に專すが故に種々障礙ありしが遂に能く之に勝たり其母專力勉强の恩賞として存在の中に其兒子の皆能く成立し榮耀ある地位を占め其父母を顯はすを見る

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

に及べり抑もこの兒子をこゝに導くものは豈に他あらんや其父母に存する所の道理、定見、行狀、慣習に非るはなきのみ。

格朗空は善惡錯雜したる一時の英傑なり其母は婦人に罕なる精神氣力を具へ志向決定して移らざる人なり光榮なる自助の才能を有せり他人の之を助くる者離れ去る時は其才尤とも顯はる時運利あらず用度大いにして資財給し難き時と雖も速かに給辨せざることとなし精神氣力ありと雖も亦溫和忍耐なり自己の兩手を以て工事を勞作しその得るところの財を以て女子五人を己れが家よりは富榮なる家に嫁せしめたり母生平他の矜誇なし獨り正直信實を以て自ら誇れり他の僻好なし慈愛を以て僻好となすハンチンドンに居り釀酒の故家にして華麗なる家屋を有し其中に在て其兒を保養し危難を免かれ安全を得せしめんとこれのみ憂念已ざりしとなり。

ナポレオン、ボナパートの母は大勢力なる品行を具ふる婦人なりウエーリングトン、ヂユーク公爵の名の母も亦之に劣らず空林登の狀貌儀容一に其母に似たり其父は樂歌の作者及び奏樂者にして頗ぶる世に聞へたり抑も甚た怪しき事は空林登幼年の時には其母彼を以て鈍物と思ひ之れを愛する事肯て其他の兒子に比せず後來エーリングトン大功を成しかば已を得す彼を以て自慢するとなれり。

亞米利加合邦の大統領亞當士かつて波士頓の女子學校にて試驗ありし時女子生徒の演說を聞て深く悦こび遂に其自己の生涯及び品行大いに其母より感化を受け永く存して消滅せざる事を話說に及ばれけり其言に曰く我れ小兒の時に極大の福を受たり即はち我母常に小兒の品行を陶鑄せんと思慮を勞せられたる事なり我この時敎法の訓誨と修身の敎諭を受けしと後來我が平生に貫徹して暫らくも記憶を離れず今より以後我若し母の敎訓に違ひ或は不十分なる擧動あらば全たく我が過失にして母に負くの罪を免かれずと曰り。

空斯禮兄弟は一致派を創立せし有名なる人なりその父母を愛する事特に深かりしが其心志を感興し其品行を發出せしは其母に由る事尤も多かりしとなり其父は强敢なる人にして時として其家人を待する疎暴なり其母は聰穎なる才力ありて眞實を熱好すと雖も溫和、親厚、眞純にして勸奬するとに長ぜりこの母は其兒子の爲には敎師なり又愉快なる伴侶なり其兒子漸次にこの母の儀範に陶鑄せられたり敎法のとに於てこの母先づ其大旨を兒子の心に入て之が主とならしめしかば其兒子皆一心之に傾向し遂に早年の時よりメソヂスト(規則に從ふ人)と云る名

を得たりサミユル、ウエスレー學校にありて生徒となりし時この母之れに書を寄て曰く余の汝に勸言せんと欲する者こゝに一あり何にありとも事務を行ふに「メソツド」(規法)を立て之に遵守すべしかくするときは金玉より貴き時間をば空しく費やさず常に之を以て修め善くする事に用ふるを習ひ悟るべく而して汝必ず言ひ狀るべからざるほどの便利を得て汝の本分ある事務を十分に完たふし成すべし「メソツト」といふとは百般の事に於てその本然の理に順がつて行なふとなりと曰り果してジヨンチヤールスなる兄弟の宇斯禮氏後來ナクスホルドに於て「メソヂスト」といへる一種の敎會を創立せしが全くこの母の勸勵感化の結べる菓實なり。

法國の作史家ミシエレイその著書の序に其母の事を言しが極めて惻々として人を動かせり其書に載する論說は其當時に在て烈しく爭論のありし事なり序に言ふところ左の如し。

我この書を草する際吾が心中に一箇の婦人あり我が爭ふところの事を扶植支柱し曾て失誤するとなし三十年の前に我れ童子の時吾が母を失ふと雖も常に吾が記臆の中に生存し年歲を歷れども常に跟隨して我を離るゝ事なし。

吾が母は我れと貧困を同ふし而我の產資饒裕ある時に之を分ち受けず我の少年なりし時に母を憂愁せしめ我今に及んで還に之れを慰樂すると能はず我何れの地に母の遺骨の藏めしやも知ると能はずこの時我貧しふして地を買ひ母を葬むると能はざりけり。

然りと雖も我多く母の賜を受たり我れ深く我は婦人の子なる事を覺ゆ吾が意想吾が言語の中に我は婦人の子なるとを覺ゆ吾が意想吾が言語の中に我が母を見出せり獨り外面の形狀容態に於て母を見るのみに非ず我をして過去りし年母の愛育を受しとを記臆せしむるものは我が母の血なりけり。

我年漸やく老んとす何を以て我が母許多の恩に報ひんや惟一事あり則ち婦人母儀の緊要なるとを世人に向て公言するとなりこれわが母或は我に向つて謝すべしと思ふなり。

●叢話

○和文學講義

第八回　詞辭用格　　鈴木弘恭　述

次に連體言といふは體言に連接する言也體言とはもと形體ある物の名といふ意にて則ち名詞のことなり名詞を區別すれば有形名詞無形名詞固有名詞普通名詞などの細目あることは既

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

に上に揭けたれどもこれを一つにこめて躰言とはいふなり連躰言とハ則ち四の音に運用たる鳴く動く咲く吹く飽く燒く聞く行く書くの類之これハ鳴く鳥動く木咲く花などいふときのなくうごくさくにて鳥が鳴く木が動く花の咲くなどいふ時のなくうごくさくには非るなり。

さて此の四の音と上の三の音との區別ハ同じなくうごくさくふくあくやくきくゆくかくといふ言にて終止言と連體言との區別ある事なれば餘程細かにいはざれば貴賤等の心中に落入るまじと思へば重複のやうなれども亦此所に終止と連躰との二言を並擧て示すべければ能く是を味はひ知るべし

鳥がなく	鳥のなく	鳥ハなく	鳥もなく	鳥なく
木が動く	木の動く	木ハ動く	木も動く	木動く
花が咲く	花の咲く	花ハ咲く	花もさく	花さく
風がふく	風のふく	風ハふく	風もふく	風ふく

是等の鳥木花風ハ名詞之がのハもハ指動詞之次に鳥なく木うごく花さく風ふくといふハのもじを省きたる例にて鳥のなく木の動く花のさく風のふくといふに同じ然して是らののハ俗にいふがの意なりたとへば彼のよむ書車の通ふ路裁縫の出來る人などいふときののもじにて則ち彼がヨム書車がカヨフ路裁縫がデキル人といふに同じ故に鳥なく木動く花さく風ふくの類ハ皆がの字をそへて鳥がナイタ木がウゴイタ花がサイタ風がフイタと解すべし是れ等のくハ皆終止言の格なりさて

又

物にあく	物をあく	火にやく	魚をやく	魚やく
話にきく	話をきく	聲にきく	聲をきく	聲きく
山にゆく	山をゆく	路にゆく	路をゆく	路ゆく
紙にかく	字をかく	手かく		

是等の物火魚話聲山路紙字手ハ名詞之にをハ助動詞之次に魚やく聲きく路ゆく手かくといふハをもじを省きていへる例にて上に示したる鳥なく木動く花さく風ふくなどののもじを省きたると同例なり是等のくも皆終止言の格なり

先づこれらの類によく注意して名詞を直に承たる語尾のくと指動詞また助動詞より承たる語尾のくハ悉く終止言なりと知るべし。

因に云此所にある指動詞のうちのがのと助動詞のうちのにをとハ必らず名詞を承る詞なれバ此がのにをの添ハりたる詞ハすべて名詞なりと思ふべし

さて連躰言なるものハ左の如し

加行四段用格連躰言

鳴く鳥　なく虫　動く木　うごく水
咲く花　吹く風　飽く人　やく火
聞く話　行く路　書く文字

是等の鳥虫木水花風人火話路文字ハ名詞なりすべて名詞の上に添ハりたる詞にして語尾のくと運用たるものハ悉く連躰言なりと知るべしなほいはゞ漕ぐ船引く車突く杖解く紐脱ぐ沓置く机などいふ漕く引く突く解く脱く置くも連躰言なれどもこれを船を漕ぐ車を引く杖を突く紐を解く沓を脱く机を置くなどいふときは此の漕く引く突く解く脱く置くハ終止言なること上の例の如しさて是にて連躰言のことも分明に了解し給へるなるべし。

又云此の連躰言ハすべて下に續く言あれども若し上に指動詞なるぞやかの何などの辭あるときハ則ち切るゝ格なりこれ本來續く言なれどもぞやかの何の指動詞に應じて切るゝがゆゑに連躰言の結びハ甚だ力あるものと知るべしその例をいはゞ左の如し

我ぞかずかく　ねをのみぞなく　露やもりゆく
飽かずとやなく　ところどかきく　つり舟かこぐ
秋風のふく　うくひすのなく　など鹿のなく

是等のぞやかのなどハ皆指動詞之かくなくゆくなくきくこぐふくなくなどハ皆連躰言の結びなりと知るべし。

次に已然言といふハ已に然る言といふ意にて過去言となる之則ち五の音に運用たるなけかでけさけふけなけやけきけゆけかけの類是なり然れども此のなけかでけさけとばかりにてハ已然言とも聞えざれバ上の將然言(即ち一の音)の例の如く假りに是に付屬する辭(即ち助動詞)を添へてみる例之則ち左の俗解を味はひてその已然言なることを知るべし。

但し此の五の音に付屬する辭にハ結動詞なしバどどもの三の助動詞と嘆動詞あるのみ之嘆動詞のことハ下にいふべし

加行四段用格已然言

鳴けバ　俗ナクガヤアソコデ
鳴けど　俗ナクガヤアナレド
鳴けども　俗ナクガヤアナレドモ
動けバ　俗ウゴクガヤアソコデ
動けど　俗ウゴクガヤアナレド
動けども　俗ウゴクガヤアナレドモ
咲けば　俗サクガヤアソコデ

咲けど　俗サクガマアナレド
咲けども　俗サクガマアナレドモ
吹けば　俗フクガマアツコデ
吹けど　俗フクガマアナレド
吹けども　俗フクガマアナレドモ
飽けば　俗アクガマアツコデ
飽けど　俗アクガマアナレド
飽けども　俗アクガマアナレドモ
燒けば　俗ヤクガマアツコデ
燒けど　俗ヤクガマアナレド
燒けども　俗ヤクガマアナレドモ
聞けば　俗キクガマアツコデ
聞けど　俗キクガマアナレド
聞けども　俗キクガマアナレドモ
行けば　俗ユクガマアツコデ
行けど　俗ユクガマアナレド
行けども　俗ユクガマアナレドモ
書けば　俗カクガマアツコデ
書けど　俗カクガマアナレド

書けども　俗カクガマアナレドモ

さて此の已然言ハ皆かくの如くにばどどもの辭の添ハりて完全の言となる事之ばハツコデといふと之どハナレドといふと之どもハナレドモといふと之。

又云ツコデといふばハ漢字の故の字の意之ナレドといふどハニアレドといふと之ニアレドを約めてナレドといふ之平常の談話のうちにも左樣ナレド左樣デアレド左樣ニアレド皆同意にいへるを思ふべしナレドモといふどもハニアレドモといふ意にて俗にデアレドモといふと之ニアレドモを約めてナレドモといふ之平常の談話のうちにも多く用ゐる言あり。

さて此のツコデナレドナレドモといふ言とナクウゴクサクといふ言の間にあるガマアといふ言ハ隊嘆言といひてものに感心志たる時に思ハず發聲する言之たとへば平日の詞にもオヤマア彼人ガマアサウマアあといふ時のマアの類之此のガマアツコデの言が添ハりて始めて已然言の狀を見ハすえ然れども此の言ハ十分の過去を示す言に非ずして過去より現在に關係する詞之故に我が師ハ此の已然言の文字ハよくも當らねども相當の文字を考へ得るまでたゞもとのまゝにておくべし凡て

已然言ハ過去より現在までに關係あれバしかなるとあれるとを兼ぬる言と心得べしといはれたりたとへバ鳥鳴けバといへバ鳥ガ鳴クガヤアツコデといふことにて鳥が先刻より今に至りて鳴くをいふ也木動けバといふも同じ木が先刻より今に至りて動くをいふ也又花咲けバ風吹けバといへバ已に咲し花のまだ散らぬうちにいふこと已に吹出し風のまだ吹てあるうちにいふ言也故に已然言ハ已に然る言なれど過去より現在までに關係ある言なりと知るべし。

又此の四段用格の五の音ハ其用方によりて希求使令言とある格也希求とハねがひもとむること也使令とハおほせつくることと(即ち命令詞)ありさて希求使令言となるものハ上に指動詞のはもを受けて切るゝ時か或ハ全く指動詞なくて切るゝ時に限れり此の希求使令言とありたるときハ同じ五の音なれど已然言にハ非ずして現在言あり又上にこその指動詞ありて切るゝときハ尋常の切るゝ格にて已然言ありさて希求使令言ハ左の如し

鳥は鳴け　鳥も鳴け　鳥なけ
木は動け　木もうごけ　木うごけ
花は咲け　花もさけ　花さけ
風は吹け　風もふけ　風ふけ
酒は飽け　酒もあけ　酒あけ
魚は燒け　魚もやけ　魚やけ
聲は聞け　聲もきけ　聲きけ
馬は行け　馬もゆけ　馬ゆけ
人は書け　人もかけ　人かけ

是等の如く上にはもの指動詞あるか又全く指動詞なくして鳥あけ木動け花さけとやうに云ひて切るゝ類ハ何れも希求使令言ありと知るべし。

先づ是にて四段用格の加行だけのお話ハあらまし濟たれど後回にも尙續て四段用格の左行太行波行末行頁行の活用法の話を細しくお聞せ申すべし。

○婦人傳を讀むの心得

人の傳記實歷を讀むは實に面白きものなるが中にも婦人方の御身には古今の賢女烈婦の實傳を聞るゝほどに樂きはあらざるべし然も此事時としては勸懲の說敎にも優さるの効能あり古へよりローランド夫人の傳を讀んで幾多の小ローランド續出來したるか又たハンナモアの傳を讀んで幾多の慈善敎育家の候補出現したるか思ふに其かず甚だ少かるまじきなり之

を以て吾人は世の婦女方が古今の佳人傳を繙ときて數多の賢女烈婦に面會し其の實歷傳紀に思ひを寄せて自身の指南となされんことを希ひ扨ては此の雜誌の上にも不斷佳傳の一欄を設けて斯る優等の婦人方をバ讀者の目前に紹介し參らするとなり、然るに此際注意すべきは古への道德に據て賢婦なりと認め昔しの女學を以て貞女なりと見做したる婦女子を其まゝに賢女なり貞婦なりと心得て之を尊崇し當今の道德女學に相應せざる莫大の誤ちを引起しては相成るまじきとなり、例へば今ま演戲道に從つてお染を優雅の女子なりと心得又た三勝お駒を貞を盡したる妻なりと承知したらんには之れ大なる間違ひなり尙ほかの袈裟御前の如く古より烈婦として認めたるものも今日より之を評すれば一種の淫婦とすべく靜御前として大層にほめそやしたるものも當今の女學より之を見れば一種下賤の妾なりしとして斥けねバ相成らぬこともあるべし故に諸君が佳人傳を讀んで大に感慨し玉ふもよし淨瑠璃を聞て淚を浮め玉ふもよし時に演劇を見て慟哭悲歎さるゝも亦た不可なし此等によつて古への女子が艱難辛苦の間だに所云る其の操を守り遂に目出度末代までの名を殘したるとを感心せらるゝも決して不都合なきことなり然れども之を見て之を感ずると共に右等の婦人はみなその當時の事情に隨つて斯くなしたるなり吾等もし今日に於て之と同樣の事情に會ハゞ吾が爲すところは決して斯の如くなるべからずと覺悟し彼の所云る古への賢婦烈女の志操心持をバ感心すると同時に其の行ひ振りについては自身卓然として之に染まざるの心得なくては適ふまじきものと考ふ之を婦人傳を讀むの心得とす。

故にもし此心得を確かと念頭にかざして扨て古への烈婦貞女の行ひを見れば其の心の狹くして情の厚きをあわれむと共に智慧の足らざると實に阿房らしきほどなり夢想兵衞はお輕に其の不心得を說いて云く

そもじの御親父與一兵衞どのは百性にはみあげた人物たつたひとりの娘を賣ても婿に忠義を立てさせたいと縱親父どのに思わるゝとも母御もよく得心せられた去りながら女には三從の道あり家にあつては父に從ひ人に適りては夫に從ひ夫死しては子に從ふ是所謂三從なりそもじは既に勘平といふ夫ありその馴染は父母に告ず闕隙を鑽踰たる轉合なりとも父母これを許して妻したればよろしく夫に從ふべししかるに身賣りの事を夫に談合しては納得さしやるまいとてこの事を深く匿し親子三人內談とり極めしは眞實に似

たる不實なり畢竟一文字屋才兵衛に伴はるゝ出合がしら折よく夫が立かへつたればこそよけれ告ずして走るときは身を我儘にするの罪脱れがたしこれ等は義理にくらき惑ひにて匿してよき事ありわしきとわり人に酢を乞れし時わが家にないをある顔して隣で貰ふてその人に遣るやうなものにて正直實義といふものにはあらず凡忠孝信義の爲めに子を賣り妻を賣るものは魯女が敵に逐はるゝときわが子を捨てて姉の子を伴ひ易牙がその子を羹にして桓公にすゝめたと同日の苦節にて皆是名聞を好むの惑ひぞかし………そもじが夫に告げずして身を賣らんと思ひつめしは心得ちがへにもせよ夫の爲めとあればゆるさるゝ所もあらんが當時早野氏は入獄あり年老たまひし兩親へ孝養の事は思はず只管に身を賣らんと希ひしは不孝のうへの不孝なりされはにや兄貴平右衛門祇園町にてそもじにめぐり合ひ親と夫の横死せしを告たる時はじめ與一兵衛どのゝ事を聞てはうち驚たばかり勘平は腹切て死だはやいと聞くやいなや俄にとりつめてはど〳〵死んとせり親と夫とその恩愛いづれがおもき腹はたゝれなその日愁傷のよまいとにも親夫の精進さへしらぬわたしが不孝の罪とはせめてものとこれらは殊勝に聞ゆれどまだその口の乾るやひぬまに、物躰ないがとゝさんは非業な死でもお年のうへ勘平さんは三十になるやならずに死ぬるとはさぞ朽おしかつたでござんしようとは不孝千萬なる口上ならずや………むかしから不孝な貞女といふものはなし親と夫の恩愛を天秤にかけわわすれはその天秤が折れるとも輕重はないものじやに親は年よらしやつたれは非業な死をなされても是非がなし夫はまた年若じやに腹切て死賜へばその悲しみも一倍ますとはいかにとりのぼせた時でも人には聞せられぬ口上ならずや至躰夫の爲なりとも既に夥の客に身を汚して年季が明たらば又舊の夫とひとつにならふと思ひしは色慾から出た了簡ちがひにて女の心操を正くする道理をしらぬ誤ありおなじ事ながら金翹全傳といふ小說に翠翹といふ箱入娘が金氏の息子と夫婦のかたらひしたれどもいまだ婚姻はとゝのへずそのうちに親父が身に係た不慮なとが起つて囚徒となりしかば親を救ん爲に巳とを得ず翠翹が身を賣つてその罪を贖ひしが既に夥多の人に身を汚されしかば結髮の夫に恥じて後に尼となり妹をもて彼の金郎に妻わせたるは道理至極の始末なりこれさへ一旦賊首の妻となりわれにつらかりしものに寃を報ひし事など

は女子の才覺に過ぎたりこれ等によつて論ずるときは縱早野氏が恙なくて世にありとも恥を知ば年季あけて後に尼とあらんには貞を破て貞を全ふすといふべし年季あけたらば又昔の如く夫婦にあらんと思ひしは色慾の腐がぬけぬ故の惑ひなり」云々

眞に然り若し此樣の見識を以て古の佳人を評せば之を今の女流の鑑となして無害有益の効能著じるしからん。

○米國のクエーカル宗徒

日本に女學校を新設せんとするの議

友人太田稻造君今ま現に獨逸に在り其の米國に在るの日我國に女學校を新設すべき議に付クエーカル宗徒に勸告したり其文此頃彼地の新聞に出でたるを同君より轉送ありたるに付き左に之を抄譯して本邦の讀者に示す

フヒラデルフヒア女子外國傳道會社に於ける吾が尊敬々愛する友徒諸君、生は此頃日本に女學校を設立せんとするの議を貴會に申出でたるものあるを承知し大慶に存候生は現今我日本國に於て基督敎の事業を施すべき塲所數多ありと雖も彼の女學校設立の事の如く諸君の注意と盡力とを要するもの他にこれ無かるべしと愚考いたし候元來女子敎育の必要なるとは何地も同樣の儀に候へども當今日本國に於て特に此一事を大切といたし候に付更に特別の理由數多あるゆへに候依て左に其の理由數條を開陳仕候

第一　女子の地位を進むべしとの一義ハ現今日本國社會上の問題中最も勢力あるものに候

第二　從來日本國の少年は鋭意外國語（殊に英語）を勉學いたし居候處内地雜居の事も最早近づき候に付若年の女子も亦た同樣之を勉學致すの有樣と相成候

第三　日本人民西洋の人々と交際いたし候より風俗習慣上數多の變化を起し候に付此等の變化したる風俗習慣を女子に敎授する所の女學校亦た甚だ必要と相成候

第四　日本人民は生活の淡泊なると靜肅なるとを甚だ好み候に付我がクエーカル宗徒が新に設くるの女學校ハ蓋し是迄他の宗派の人々が設けたる學校に不足したる所を補ふの効あるべく存ぜられ候

第五　凡そ無神主義敎育の感化行れるゝの地には基督敎的の母親を作り出だすと非常に必要に候

右樣特別の理由有之候に付生は日本國に女學校を新設せんとする諸君の發議を以て智慧と愛情とより出る時事適切の御處

値なりと存じ倘ほ此後右事件に對する諸君の進歩が歩々亦た智慧と愛情とを以て印せんとを信じ居り候

當今日本には少女を敎育する女學校既に數多有之候へども直接に政府の監督の下に在るものは其主義宗敎を外にするの失あり其の私立に係るものは器具不完全の失あり種々の外國傳道會社に由て立られたるものは其傾き往々にして國民の氣象を脱却せしむるの失あり故に諸君が今度新に設けられんとする女學校の規則及び敎則我日本の女子を敎育して啻に之を信實ある日本の基督敎徒となすのみならず更に之を基督敎徒日本人となされんとするに在か否や希くは左樣に有之度者也

但し右學校の性質及び組織倘ほ未だ一定致さず罷在候はゞ此事に付き多年生が思慮いたし居候愚考を相述ぶるの許を得たく候生がクエーカル宗徒中有名なる人々の傳紀を讀んで常に感佩仕候は此の宗の事業は其職に於て精神上に係はると雖も其行ひは全く實際の上に在りと思はるゝと是也故に此の見解若當を得候はゞ吾宗の女學校なるものには啻に女子を敎育して之を有益なる娘賢こき妻注意深き母と爲すの課業を備ふるのみならず倘ほ亦た之を看病婦病院の見舞人慈善及び改良主義の協會の取扱人等となし得べきようの敎授なかるべからざる義と考候

斯る敎育法を施すとは甚だ新奇の如く思はれ候半とは雖ども余は吾友徒諸君が日本國に現に此の必要ありと云へるとを承知せられんとを切望す思ふにもし此の如き敎育法を施すときは年少の女子をして他人の必要する事に對して注意の眼を開かせ之をして外部の世界に同情を寄するの習らいを得さしめて以て本邦民を愛するの思ひを維持し得べき[illegible]に外國主義の女學校に於て敎育を受けたる生徒に有がちなる彼の國民の氣象を脱するの一大弊を之に依て除き得べしと相考へ候云々

○批評　（第三十二回）

(45)　産婦備用　（中本一册（九十頁）定價金四十錢　發兌所東京日本橋通三丁目後凋閣）

此書は獨逸人パイペル氏の元書を醫學士賀古鶴所氏が譯補なりたるものにて全篇を七章に分ち姙婦の心得より嬰兒の疾病並に其看護に至るまで凡そ出産と赤子の育て方とに付ては殆んど洩れなく盡し得て而もよく簡畧に說き去りたる眞に淡泊にして便利なるものなり但し書中に說かれたる方法心得等は外國に於てこそ便利なれ我國に於ては容易に行ひがたしと思はるゝ箇條も少からず此邊別に變通の工夫を說いて譯補の功を明らかにせられざりしと一つの憾みと云ふべき也

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

(46) 貴女紳士交際の栞 （中本一冊(圖入百卅七頁)定價三十五錢發兌所東京本町三丁目金港堂）

此書は獨逸人エミールロッコ氏の元著を山崎忠興氏が抄譯ありたるものにて身躰維持の注意、貴女紳士相對するの心得、舞踏會の沿革並に舞踏の種類方法等を説きたるものあり然るに元本には凡そ交際上に必要の事柄を一切取集めたるところ此書は主も其内の舞踏に關する部分をのみ抄譯したるものと知らる元來吾人は當今の時世に舞踏の流行せんとを欲むるものにはあらずと雖ども其のすでに之れあらん以上は成るべく其禮儀作法を引〆て不都合なき宴樂をその仲間に行はせたしと切望するが故に此樣の譯書の出版せらるゝとは密かに見て喜びとするところあり特にロッコ氏の議論はよく通じて且つ古事の引用に富み甚だ面白きところ少からず

(47) 西洋女範 （中本一冊(百三十頁)定價五十錢發兌所東京金杉村二百六十三番地賀育社）

此書は英人シャットー氏の原著を渡邊修二郎氏が譯撰せられたるものなり此書全體の善惡に付ては曩に矢島錦藏氏譯斯氏女德新説の批評に於て一言したり右西洋女範あるものは即ち彼の女德新説と同一の元書を譯述ありたるものあれば今復た之を反覆するを要せざるべし、但志此兩氏の譯書を比較するに女德新説は畧して滑らかなり西洋女範は精しくして稍や角立ちたりと云ふべし。

"Scatter diligently in Susceptible Minds
The germs of the good and the beautiful!
They will develope there to trees, bud, bloom.
And bear the golden fruit of Paradise."

Ruskin.

●佳傳

○小野寺十內の妻

赤穗義士小野寺十內秀和妻丹子は灰方氏が女あり義氣風雅俱に其夫の行に配して殊に睦敷かりける旨は秀和より送れる數通の書に見へたり初赤穗の難に馳下りたる時かしこより同姓十兵衞へ送る書に老母妻にも此志は不申聞候樣子にてさとりたることもしらず候中略女にて聞てもさのみ騷くまじき覺有之候間被仰聞可被下候となり又其明年復讐のため東行してのち極月十二日妻へ贈る文にも萬一如何樣の難儀掛り候とも見苦敷やうにはしなし被下まじく候今更思ひ殘すこともあくて心よく打立候まゝそこもとにもせめて本望と思ひ玉へ候かし又二日三日の文にもそもじと有まじき歟さ侍り候はゝ兼てかくごのと取亂し玉ふまじきと心安く覺候抔の如き懇後の詞に固より此程心づかひ多き中にも書かいされし趣にて其風雅見ゆ極月十二日の文に此方の歌取分相坂の歌あはれの由能聞玉ふとぞんじ候そこもと歌さて〳〵感じ入候淚せきあへず人

の見る目をれもひまことに涙を呑といふ心にて幾度か吟じ候をくの方まさり申べくとありなとあはれにやさしく社復讐のことおこりて後此婦人のよめる歌は秀和の返事にかんじ入と見へしも其外も傳はらず平生によめりしは夫婦ともに歌の師とせし金勝慶安のゆかりの人もてる直筆の寫しを見しに數首有り中にすこしこゝに書置つ　なき人の墓に詣し言葉書有て

　きのふまて問へは答し言の葉に聞てそかふれ松の下風

復讐の後秀和同息秀富といふ幸右衛門自盡をたまへるのちおもひ兼てや數日食を斷ちて身まかるといへり墓は平安本國寺の塔頭了覺院といふに有て梅心院妙壽日性信女元祿十六癸未六月十八日と刻す鬼錄には法名の上に

　夫や子のまつらんものをいそかましなにか此世に思ひ置くべき

と辭世の歌を書自滅と記す然れば刄をもて死せるにや（近世畸人傳）

○小妹、兄の命を請ふ事

亞米利加合衆國に於て大統領リンコルン氏在職の頃チーエンと云へる一農夫にベンニーと申す息子ありけり元來勇壯にして義氣に富み常々腕を揮つて父に示し此の手もし鋤犂を握つて終るべしとならば寧ろ痿え枯れなんことを願うと述懷し居たるが彼の戰爭の折り遂に徵されて兵士となり多年の本願成就して千軍万馬の間だに奔走すべき身分とは成りたり父母は國の爲めに我子を御役に立てたるを喜こび友情あつき小妹ブロッソムは日夜兄の身を案じて寢ざめにも忘るゝ折のあらざりしとあるべし。

然るに突然として電報ありベンニー事番卒と爲つて夜の目付を爲すとき其職を怠りて睡眠したれば之より二十四時間を經て軍律に從ひ銃殺の刑に處せらると一家の驚き比ふるに物なし父は來人に其歎きを告げて數度び同一の言葉をくりかへすも亦た無理にはあらず嗚呼吾兒は平生謹愼正直にして中々に其の義務を怠るが如き質にてはあらざりしものを如何なれば今はた斯る命運とは爲れる出陣の折は斯る勇ましき愛子を國の爲めに犧牲と爲さんとする此の私ほどに大切の寶を差出したるものは他に候はじとまで思ひ居候を今は事もなく徒らに擊ち殺ろされんとは抑も何如なる不幸ぞやなど申す客も亦た左に右と言ひて之を慰むるとき小妹ブロッソムは面を靑くして言葉を出さず齒を噛み結ばつて眼を張りしめ涙一滴を落とさで胸に万斛の思を滿たし臺所を取片付くるも殆んどたゞ有頂天にて致し居りたり折柄ホト〳〵と戸を叩くものあれば行

て見るに郵便脚夫のトある書狀を持ち來れるなり受取つて之を一見し嗚呼や「兄上よりぞ」と叫びて直ちに父に出す父は手ふるへて封を開くに堪へず殆んど幼子の如くして其儘に之を客に渡し讀聞かされんとを乞ふ、客は封押し開ひて之を讀む其辭ばに

大人閣下、此書御落手の頃は兒すでに永遠の世へ參り居候とと存じ候此度の事件最初は自から恐ろしとも相考へ候か今は中々恐懼の念毛頭も無之人々は兒如此ならバ別段躰を縛し目をかくし申すにも及ばず必らず大丈夫としてよく其刑を受け得べしなど風評致居事に候、然し乍ら兒が生命は戰場に於て國の爲めに盡力し花々しき軍功を建てんとて相果得べきものに候を今ま斯く國家に害を爲したるとの罪を以て犬の如く殺戮せられんとのみ殘念至極に候それゆへ一念此に至るときは慷慨の思禁じがたく自分ながら此の思のみにても死すべきものを何故倚ほ能く生存し候やと疑び居るとに候、とれ云へ兒は決して大人の尊名を汚がす如き卑怯の事を致さず此事件の本末を左にあらまし申上候まゝ何卒之を御記念被下兒死したるのち人々へも御告知らせ被下樣願度候但し今に於て之を餘人に申すは固より兒の爲し得ざる所に候也

大人も御承知の如く最初出軍の砌り兒はゼンミーの母御に約してゼンミー殿を宜しき樣介抱可仕と申候により同人病氣の節は兒の爲し得べき丈の力を盡して之を看護いたし候次第の所彼の夜は晝比ろ退軍の號令ありて一同早足にて退き候節ゼンミー殊の外疲勞いたし居候に付兒は其の荷物を擔當して兒の分に倂せ凡そ二重の荷物を擔ぎ候により途中よりは甚だ重く相感じ候へども身躰の疲勞は兒一人にあらず惣躰同一の事なるのみかゼンミーの如きは兒の腕に據らせて漸やく走り得たる程の事に候

それゆへ陣所へ到着せし比ろは眞に疲れを極め罷在候ひしが此時丁度ゼンミーが番卒となるべき順に當り居候に付兒之に代つて番を致居候ひしなれども大人よ此時兒の疲勞は言語同斷にて假令ひ銃丸が頭腦を貫き候とも得て目を覺まし居ると相成がたき程に有之候より扨てこそ時の過るまでも我知らず居眠りたるとに候

此時チーエン快喜して神に感謝しそうであらう〱ベンニーは何も左樣みだりに眠る如きものにはあらずと叫びたり

然るに今日人々のあはれみに由て少さかの時間を貰ひ受け

則ち此狀をも相認め候將官は兒を助けんと望まるゝと方々には候へども何分軍律によつて止を得ず此の刑を行はるゝ義に付大人も決して御恨みなどあらざるよう致度尚ほせンミーは殆んど半狂の姿にて兒に代つて刑につかん〳〵と申し居り甚だ憫然に御座候

然し兒は母上の事及び妹ブロッソムの事を思ふときは眞に堪へがたき思有之候大人願くは彼方々を慰めて御傳へありたし假令ひ兒は今に於てこそ世のそしりを蒙り候へ此の戰終りたらんのちには事情も明白と相成とゆへ其後迄も決して方々に不名譽を負せ候はじと申通ぜられたく候

密かに相考へ候へば今夕牝牛野よりかへり候比ほひにはブロッソム例の如く庭口に立出でゝ兒の歸りを待受け候はんか然し乍ら兒は決して再び歸り得べきものに候はず願くは

諸君一同に万福ならんことを謹言

然るに此夜人すでに寢たるとき少娘ブロッソムは密と庭口より逃れ出でゝミル、デーボーの停車塲に滊車をまち受け車掌に志を述べて車に打乘りワシントンの都なる大統領リンコルンの官宅へと進み行いたりける（未完）

"Dorothy discharged the houshold duties,
While Wordsworth threw his thoughts into verse."

● 小說

○薔薇の香

第十五回　（會離の無常）　月の舍　しのぶ

青山哲は少し顏色を青くし眼を光らせ躰を立て毅然として辭を改ため云ひ出るよう

お香さん今日はあなたに一身上の大切なる事を申上んければなりません

何事で御坐いますか大層改まつて仰しやいますネー

ハア、別の事でもないですが私は今度いよ〳〵エンゲージ（婚緣を結ぶ）をしましたから

ホヽどなたとですか其は御目出度ことで私はお祝ひ申しますよ

イエ戯談ジャア御座いませんよ本當のとですからあなたにも御披露をして向後のお附合を願はんければなりません

今ま私が玆に來まして自身で此事をあなたに申しますのは實に尋常一般の考ではないてすどうかお察し下さい

なんですか、あなた、大層今日はおかしひジャアありませんか、そのうあなたが今度エンゲージを成つてそして夫が尋常一般の考でない……察して下さい……どうも分りません

よ、あなた亦たおシャレですかシャレならバ一寸そうお斷わり下さらんと分りませんから

お香さん今日はそんなとでないのです實は昨日私は白河さんと約束を取かわしましたから……どうか

白河さんとお約束を……ホホホ白河さんと……

とほゝゑみ乍ら密と青山の樣姿を見れば腰深く椅子に沒し頭をうな垂れ眉に皺だゝせて兩の手をこまぬいたり初めてハツト氣をつけて急かに胸に動氣を起こし

いよ〳〵それでは

ハイ

もう御病氣はお直んなすつたので御座いますか

イヱ中々直らないから遂にそうしたのです

大層物ずきなとで御座いますチー

それが即ハち尋常一般の考でないんです

まことにお目出度ぞんじます何れお祝ひに上ります

左樣ならば波羅さん、私は此事をあなたに申してあなたの贊成を得んければどうも心が濟んように思ひましたからわざ〳〵巳ぼれらしく報告に參つたのですよ、あなたがそう冷淡でさう贊成なさるんなら何も云ふとはないんです左樣なら

と言ひ乍ら立ち上るをジロリと下より見上げて兩眼に涙を溢らせ唇を少し震るハせつゝ其儘に首を下げ袂をくひしバつて微かなる聲を出せり、立ちかけたる青山はまた腰を下し

だから、あなた、どうぞ我輩の志を察して下さいと申すんです今日までお互ひに斯樣に親しく交ハつて居たのですから今ま此の一身上の大事件についてあなたが私の思ふ所を思やつて下さらないのは實に堪られないとですチチ

ハイあなたのお心はよく分つて居りますから……それにあなたのお心に適うやうに成さるんですから……何にも私がかれこれと申す筈は……御座いませんのですから……あなたの……思ひなさいますとほりに………なさいましたら

ヨヨ宜しひんですから……

困つたものだ、憫れむべきものだ、白河とは大層な違ひだ、どうしても女だから分らないのか、然し無理でない所もある、かわいそうなものだ、子供のようなものだ。以上あまたの考が交る〳〵青山の心中に入り來り來り去りたるが例の半癇癪的の決斷を以て遂に突立上り

さようなら

其儘さつさ〳〵と出て行く次の間にて今ま茶を入れて持ち來る此家の姆と出わひがしら

チヤ〳〵青山さま早やお歸りでお茶を一つ召し上つてどうか入らつして下さいませ

有がたう御座いますが少こし急ぎますから左樣ならッどうかよろしう

それではどうもお構ひ申しも致しませんでハイ〳〵どうかまたお出で下さいませ

見送つて獨り言、今日はどうあすつたのですかチーお孃さまが送んあさいませずそれに大層お早くお歸んあすつて……ハテ何か在たのですかチ、老のくせとてくど〳〵つぶやき乍ら彼の室へ參り見るに椅子に倚りたるまゝ袂を嚙み破つてシクシクと泣いて居る、姆のわしをとゝ共に泣聲が高くあり彌よ癇癪を起して袂を攻擊す此の衣何の因果によつて此怨を受くる

お孃さまどうなすつたのですか

イヽンだよ放置つて置てよ

だつてあなた何うあさいましたのですか仰しつて下さいましたら亦た分別が

イヽッテバさ姆やあつちに行つて頂戴よ姆アヤー

●寄書

○大坂一致女學校生徒文歌

大阪一致女學校生徒　片倉雛女

それ山水を見て詩文を作るも月雪花を見て歌を詠するも神のたまものを讚美するものにていにしへの人もことはりやまことの神をばしらざるも何となく神の賜き御恵をばたふとみたる歌其たまものを感じたる類ひいとすくなからずそハ今更いふべくにハあらねども我學びやの友どちがふみよむ窓の戸うちひらきてさやけき月影をながめ居ければ雲路はるかに聲もあらわに雁のはたり來ぬれば思ひ〳〵に口すさみたるありのまゝのことをれをばわがおろかなる筆にて書しるしぬてにをはのとゝのひさへもいと覺束なきはざなれど長き夜のやまひせられぬつれ〳〵草わらひの種にもなれかしと思ひいづるも實にをこのすさびとやいはん

同校生徒　藤井とめ子

澄わたる月のみ舟をさして行からろのおとや秋の初雁

同校生徒　前川まさ子

雁やかりわれも導け天つ空神のましま す國そ戀しき

同校生徒　楠谷みね子

ふるさとを思ひ出せと雁金のなく〳〵わたる秋ハ來にけり

同校生徒　山内あさ子

やよやまてことつてやらん雁金に神の道をばわれも求むと

同校生徒　橫川みね子

このよこそかりのよなれと雁金のさこそあはれになきわたりけれ

同校生徒　谷ふみ子

雁金のこゑなつかし〳〵月澄て心もきよくなりまさるかな

酒のむ人のもとにやるとて　同校生徒　谷ふみ子

うきことのわすれ草にと呑む酒をみたる斗に醉ひな過しそ

ある日野に遊びて　同　前川まさ子

秋の野の千種の花を見てさへも心ハ神の惠をぞしる

六とせのあと此難波の浦に來たまひて基督の教の道を開きたまひし亞米利加のアレキサンドル大人ハこたび國へかへらるゝ其名殘を惜しみて　同　藤井とめ子

いさなとり海路はるけく隔つともかはらでよせよ浪のおとつ禮

○女學生の旅行何如

本鄉追分町五十五番地　磐多いさ

今斯の如き問題を揭けハ世人ハ頗る之を怪まるゝなるべし然しながら近來我邦女

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

學の隆盛なること未曾有にして東京は勿論地方に至るまで普及せんとし準て女學校の設置も亦日に月に增殖するの景況なるは新聞紙上にても皆能く知る所なり而して彼の小學校を取除け其女學校の種類を擧れば普通教育の學校最多くして高等普通學校之に次ぎ專門學及び技藝學を教授する所甚だ少し。

普通學は既に知らるゝ如く其科目多くして讀書、算術、地理、歷史より理、化、博物外國語に至り特に音樂、圖畫、裁縫等の科を設くるを常とせり、高等普通學は右の他二三の學科を增設し且つ程度を進むるに過ぎず、專門學は文學（例之經濟學、哲學、神學、和漢文學、洋文學の如きもの）醫學其他音樂、畫學等なり、次に技藝の科に至りては裁縫、編物、紡績、製糸等なるべし。

以上の諸學科中最必要にして最多く學ぶべきものは普通學科なりとす何となれば是女子生涯の行路に於ける必須の教育は此所にあるを以てなり、高等普通學及び專門學の如きは其人各身分及び志望に從て適當の教育を得べく、技藝は多くは女子の生計に富裕ならざるものに授けて其資と爲さしむる所なるが如し。

顧るに社會に於て上流に位して永く高等の教育を受け得らるべき女子は比較上至て少く中流に在りて生活を爲すの人即ち普通の教育を受けらるべき者も稍少く其下流にありて自ら勞力して營生せざるべからざる者は甚だ多きを見る、然れば前に述べたる學問の種類を以て略ぼ此階級に當つれば高等及專門學等は多く上流の女子に適し普通學は中位に適し下流の女子に至りては尋常小學の教育すら尙ほ充分に受くると能はずして早く職業を以て自力生活せざるべからざるもの夥多なり。

今日普通女學校の景況を觀るに其諸科目中專ら外國語特に英語に力を用ゆるが如きを以て女生の之を學ぶに汲々たること日も啻ならず或は高等の科書を講し或は詩文を能くし或は會話に巧なる等其上達甚だ驚くべく其品格、氣風の高尙にして天晴敬愛すべきの資に乏しからざる者あり、然れども其人の志想を觀るに其身の力度を超て徒に天外に翔り雲上を踊るに似たるものなきあらず彼の人自ら謂らく吾英語を學び、會話を能すること斯の如し、詩文に巧みなること如斯、音樂唱歌に妙なる如斯其他和漢文、理、數、歷史の類殆ど通曉せざる所なく吾才能技藝に餘りあるも吾邦の弊習尙未だ全く脫せず男子の傲慢にして女子を無蔑すること眞に嫌厭に堪へず彼の下等官吏輩、商估輩、書生輩何の爲す所かある吾前途を謀るに吾生涯の苦樂を俱にするの良友たらんものは官に在りては奏任以上ならざるべからず野にありては紳士、紳商ならざるべからず又學士大家たらざるべからず若し此の如き良友を得ざれば吾藝能を以て子女を薫陶するの任に當り自立して世路を渉るに何の難き事あらんや嗚呼止みなん天帝吾をして自由快活なる英米の士に生れしめずして賤抑羈屈なる此邦に生ぜしめたるは何ぞ亦た偏照ある歟と、抑も高等の教育を受け才學藝能あるものは男女となく社會に於て甚だ多くを要せざるものにして又實際上如斯を得ざるものとす若し今女學生の志想をして自ら揣らず概ね如斯妄想を起すに至らば其社會に映する現象實に言ふべからざるものあらん故に教育は社會の階級及び進度に應じて上下左右せざるべからず即ち今日に於て普通教育を受くるもの最多かるべく又手技工藝を學ぶものも亦た多からざるべからず而して高等及び專門學を修むるものは少數なるも敢て不可なかるべし茲に女學の景狀を觀るに日常必須の學科を忽せにして啻に華美聲譽のみを事とし英語を專らにし音樂を奨め、詩歌を詠まざれば貴女の列に齒せざる者と做し女子の專ら勉むべき家政、衛生、育兒等の科に至ては敢て意とせざるものなきにあらず而して英語、佛語等の如きは開明の社會にありて交際を求め智識を擴むるに必要なるは言ふを俟たざれども唯だ通常の語を知るも其方便を得たるのみにして學問と云ふ程のものにあらず然れば洋語を學びたりとも之を以て學者といひ難く又淑女とも云ふべからず故に實用の學を先にし餘力あるときは他の學科に移るは可なり徒に輕佻にして自ら得たりと爲さば力餘りてもんどりうつ如き事あらん頃日實社雜誌の女學校論は甚だ懇切なる誘導なりと雖も右の事に說き及さゞるを以て世の教育家、教師、及女學論者に向て可及的前述の如き妄想の傾きなき位置に教導せられんことを祈り併て江湖の姉妹に其意見の如何を問はんと欲す」

記者云く、吾人は女學校論第二に於て少しく此理を說述したり然るに今ま此の懇切なる論話を得て讀者に益す女子普通教育の正路を指示し得たるを喜ぶ

● 新報

○私立女子經世學校　今度日本橋區藥研堀町四十一番地に設けし同校は英、漢、數、和洋服裁縫、編物、習字、音樂等日用必須の學科を授け博く婦人の令德を養成する目的にて校長には大橋花子を聘し顧問には山岡鐵舟翁を賴み去る二十日より開校したりと

○東京結婚契約會所　淺草區東仲町五番地粟加嘉三郎外數名より今度標題の如き會所を設けたき旨此程其筋へ出願したりと今其方法を聞くに同所は一万人の加入者を募集して結婚上の周旋をなし又加入者が結婚の際は五圓以上二十圓以下の貸付をなし月賦にて之を取立る仕組なりと云ふ

○東京女學　芝飯倉町の同學にては創業日尙ほ淺きも生徒は追々增加する計り從來の校舍にては狹隘なるに付き校舍新築の計畫ありと又去る十七日の祭日には同學生徒一同及び其父兄を招き講話會を開き英語教頭ドクトル イビー氏の夫人ミセス イビー、醫學士竹中成憲、第一高等中學校教師獨逸人ワルッ諸氏の演說あり何れも女子の心得となるべき教育若くは衛生上の談話にて右終りて校主大儒氏より一同へ茶菓を饗したるが同日の傍聽には大木伯爵の令孃其他百餘名ありしと

○女生徒の洋服　高等師範學校女子部の官費生徒の冬服は舶來綿フランセル地にて此程數十組を山城町の平島裁縫女學校へ注文になりたりと而して一組の代價は僅かに六圓五十錢なりと云ふ

○佛女學校　神田猿樂町の同校にては校長オリエ女史の注意頗る行屆き且教授も其宜しきを得たる故生徒の進歩は甚だ著るしく今度同校より來月四日佛國へ留學せる櫻井錦子の如きは在校の日僅かに一年に滿たざるも早く大ひに佛語に熟し

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

佛人と萬端の應接なすにも一も凝滯する所なき程なりと云ふ又同校は過般校舍を築し規則を修正せし以來益々貢校の闇にありしが今度又々在來の女教師の外にジヨセフ、オダスチナの二女史を招聘し毎日五時間づゝ生徒の教授に從事せしむるよし右二女史は全く日本語に通せざる由なれば佛語を學ぶには生徒のため又一層の便宜を與ふる事なるべし

○東京婦人教育談話會　同會は去る十九日を以て其第九會を小石川植物園に開き副會長辻坐子、幹事木村貞子、貫名綾子等其他會員諸氏百餘名賛成員宇田盛三郎、辻新次、永井久一郎等の諸氏來會し先づ木村貞子開會の告辭あり次に山勢派藤川伊勢子外二名琴胡弓三絃にてミダレの一曲を奏し次に賛成員順次に演述あり次に會員諸氏修身、經濟、衛生、歷史の談話あり次に前同派の三氏東獅子、越後獅子等を合奏し次に高橋きん子散會を告げ且つ茶菓の饗應もありて一同目出度退散去たり

○女教師の官宅　高等女學校にては先頃より同校構内へ御雇女教師外國人ミス、プリンス氏の官舍を建築中なりしが此程漸く落成して移轉したる由

○韓樂會長　内山下町の鹿鳴館内に設けある韓樂會の會長は是迄鍋島直大氏なりしが今度都合により高木兼寛氏が代りて同會長となりたりと

○淑女舘　本所横網町二丁目の同舘は村松志ほ子其他の盡力にて追々生徒も增加し已に六十餘名に及びしかば今度更に教師を增聘し漢學を原川さだ子、英學を鹿島清子、裁縫を木村よね子、習字を原川さだ子、中村若子などが分擔する事になりたりと云ふ

○婦人乘馬短銃練習會　今度各大臣及び貴顯方の發起にて椋鳥の如き會を起さんと目下盡力中にて其組織に關する周旋本邦在留の獨逸婦人某子なりと

○高崎の婦人會　去る十七日群馬縣下高崎町西群馬教會に於て午前九時より基督教徒の婦人會を開きしが安中、原市、新町、藤岡其他の各地より來集せしもの無慮二百餘名會堂にて祈禱唱歌談話等をなし了りて春陽舘へ至り會食し將來の懇親を結びたりと

○鐵谷かな子の建碑　去る十六日伊豫國今出飛白の發明者なる故鐵谷かな子の建碑式及び祭典を其住居の地たりし伊豫郡垣生村に於て執行したる由當日參集せしは藤尾同縣書記官を始め所轄郡長、近傍戶長、實業家、飛白仲買人、新聞記者等にて供物には菓子にて製せし飛白絣及び機等あり又競馬の餘興ありて見物人參詣人等山を築きたりと

○結髮道具の不景氣　京都にて婦人の裝飾品商は近來結髮の東京風に變りし爲め從前の頭道具は大概廢物同樣となりしより續々東京より職人を雇ひ入れて流行向の諸品を調製し居りしが其後又々束髮が流行し進んで頭道具を買入れんとする年頃の娘が聞々束髮に改めしより折角調製したる東京風の品も亦思ひし程には賣捌けず只田舍商人の入京を待つの外なきより同業者は日に月に困難を加ふるとの事なり

○洋服地の帶地　此頃中等以上の婦人中女の洋服地に用ふる佛國製の織物を帶地とするを流行し夫が爲め越後屋白木屋等にては上等の服地に充つる爲め仕入れたる織物も十中の八九は皆な帶地に賣れ殆んど品切となる程なれば何れも佛國へ品物の注文をなす由

○柳北女子小學校　淺草區柳北女子小學校は追々生徒增加し是迄の校舍にては何分狹隘を覺ゆるより藏前須本敎場裁縫室等を增築中なりしが今度漸く落成し且つ全校生徒の寄附金により風琴をも購入せしかば旁々其祝として去る二十二日落成式を執行したり當日は同區長、公立小學校長、同委員等臨場し凡そ六百餘名區長其他の演說及び生徒の唱歌等ありて中々の盛況にてありき

○女學校設立の議　靜岡にては私立女學校設立の議あり去る廿二日同地尋常師範學校内に於て其株主總會を開きしが右草案委員は常務委員廣瀨市藏、杉本大治郎、藤波甚助、吉見亮次、宮崎總吾、近藤弘の六氏、敎務委員鵜殿長道、杉原正市、小林光泰、城谷謙、蜂屋定憲の五氏なりしと

○大坂婦人獎業會　大坂東區南久寶寺町二丁目なる婦人獎業會にては敎場の狹隘なる爲め今度同區北久太郎町三丁目へ移轉したる由

○婦人親睦會　大坂基督教青年會の婦人會員は去る十七日天王寺村字茶臼山の近傍へ集會し親睦會を開きたるが來會者は會長コールビー夫人を始め梅花女學校婦人獎勵會其他各會所の會員を併せ無慮四百五六十名なりしと

○女生徒の洋服　長崎縣尋常師範學校女生徒一同は去月廿六日より着服を洋服に改めたり尤當分校内に在る時丈けに限り專ら躰操稽古に便利を計る主旨にて校外へ出づる時は從來の衣服を着用するも苦しからざるよし

○藤岡婦人會　同會は去る十四日午前十時より上州藤岡なる高山養蠶傳習所に於てきたるが中々の盛況にて來會者三十餘名前橋婦人會より奧野たけ不破きよの兩子臨會し唱歌、毛絲編物、通信女學の講讀及び不破子の演說等あり午後四時頃散會したりと云ふ

○蠶糸縣製絲傳習所　同所は去る七月一日より開設せしに各郡有志者の子女にして入所する者昨年に比すれば頗る多く現在の人員を擧ぐれば公私費生を合して四十八名なるが事業結了に近きを以て去る九日同縣物產蒐集場に於て同縣書記官臨場右生徒に卒業證書傳習證書等を授與せり其卒業生は十名傳習生は三十八名にして内優等賞として金一圓を附與せしもの四名同金五十錢を附與せしもの九名其他紀念として同所採製の眞綿一包宛を附與せしもの若干名なり（本年十月十九日官報）

○佐賀婦人協會　佐賀縣にては近頃婦人協會設立の計畫あるよしにて福岡婦人協會員某氏の許へ此程同會の主趣書規則等を問合はせたるよし

○婦人英語會　大坂道修町二丁目に今度新設せし婦人英語會と云ふは學齡外の婦女をして英語學を大成せしめ且つ洋服裁縫、毛絲編物、風琴等の諸手藝を修めしめんとの目的にて敎師は米人コルヘーし、田代はつ、奈須やつ、大野よね、會長は本間はる、幹事は大塚みつ、三樹もと、磯野ぎんの諸子なりと

廣告

女學雜誌特別大賣捌廣告

右は今回本社と特約致し縣下一般一手大賣捌仕候間倍舊御購求御愛讀の程偏に奉願候也

女學雜誌大賣捌所　滋賀縣大津上京町　澤一二郎

〇國民之友自第三號至第五號社說拔萃

國民之友

日本婦人論

全一冊（略綴）定價貳錢　郵送料金貳錢　郵券代用不苦

憐れなるは日本の婦人なり而して之を助くるの救世主は何の邊にか在る國民之友は婦人の味方なり婦人を敬愛する者なり之を敬愛するの情は記者を驅りて爰に日本婦人論を草せしめ今や之を小冊として世に公にせり徧まて婦人の加勢を試みんと欲すれは也なり

毎月二回　定價八錢　國民之友發行　東京赤坂區榎坂町　民友社

●女學雜誌社出版書目

船越鼎太郎君著

產婦小兒攝生法（新著）一冊十八錢郵稅四錢

右は產婦小兒の養生法を平易なる文章にて何方にも分り易き樣認めたる者なれども所論は一々學理に照して實際を鑑み專ら當今の養生法其道を盡さゝると敎へたり故に月經の心得より、姙娠したるか否やを知ると、出產の期日を知る法、姙娠中の養生法、產後の養生法、赤子のとりあつかひ、乳を飮ませる間養生法、母の乳を用ひずして子供を育つる法等ことくく信切に敎へたり世の母たらん人は何卒一冊を座右に措きて最愛の生子を誤りて取扱ひ玉ふやうのとなからんを希ふ

〇田口卯吉君結髪沿革附錄〇和崎義路君校〇巖本善治君閱
〇渡邊鼎君著

束髪案内　美製小本八十頁細圖入　定價十五錢郵稅四錢也

當今束髪流行の折柄其結び方不案内の婦人少からず此書は日本婦人に適する束髪二十餘種の結び方を丁寧に敎へ一々細圖を附して親切に案内すれば何如なる僻遠の地に在りて束髪の風を知らざる人々も之に依て容易に自ら試るを得べし特に田口卯吉君の論せし束髪會の規則其外をも添へたれば結髪改良に志ある人々は宜く一讀あるべし

〇鈴木弘恭大人著述〇小中村淸矩大人評

改正增補文法口授　全一冊●一名和文獨案内　定價十八錢郵稅四錢

此書は文章家なる鈴木大人か多年諸學校の生徒に和作文を授業せられしを筆記したるものにて曩に出版したる所大に諸校の賞用を得たれば尙亦今般大人に乞ひ改正增補して古人の文章數十篇を卷尾に付し或は雅文を俗文に譯し或は漢文を和文に譯したる作例をも擧げたり然れば啻和文のみならず漢文を學ぶ人の和文を漢文に譯するにも大に益あるべし且女學校などに於て和文を學ばんとする生徒諸君の爲めには此に過たる良書なかるべし

●右文法口授は學校敎科用の書籍に適當也とて發兌后一週日をまたざるに既でに成立學舍女子部及び頌榮女學校並に明治女學校櫻井女塾等の敎科書となり

〇鈴木弘恭君講述〇山村亮作君筆記

つれ〴〵草講義　定價十二錢郵稅四錢　第一號

右は鈴木弘恭君の講義わりたるを山村君の筆記せられたるものにして其解釋の綿密なる一本を机上に備ふる時は五里の霧中を出でゝ霽晴朗々たるの天色を見る心地す四方の貴娘諸子請ふ續々購讀あらん事を

木村鐙子小傳　定價十錢郵稅六錢

東京新橋日吉町八番地　女學雜誌社

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

○統計局次長世良太一君序○統計協會議員吳文聰君序

婚姻論

○朝野新聞記者横山雅男君著
○定價一冊三十五錢郵便税十四錢

右は横山君が得意の統計學上より婚姻の定義其外早婚晩婚雜婚離婚などすべて婚姻に關係する事物は擧げて殘す所なく議論の確實なる擧例の精密なる世の父母たるもの亦た青年の男女の方々必讀の書なり

●通信女學第六卷 刊行

明治二十年十月廿五日

本卷文學一斑の部には用言活用の精細なる圖を掲載せり理學一斑には地文學講義の第一回あり其他育兒心得、西洋女禮及び女子生理の部には懷姙の事を解き家內理學には溫熱反射の理を顯せり●一冊定價二十錢○全國遞送料無し

東京新橋日吉町八番地

女學雜誌社

○基督教新聞

第二百二十二號
定價一冊金三錢 每水曜日發兌

○世事評論、華族移住の許可、ブランジー將軍の就縛、地方官の送迎、デブレチス氏の淸貧、交際費增額の說●基督教新聞傳道の大運動、青年書生の本分●教報數十件●論說、未信者とキリスト教會●傳記、ウィルバーフォースの傳第七回●雜錄、露國基督教の第九世紀●雜報●廣告

發行所 東京京橋區日吉町二十番地

警醒社

●明治女學校生徒募集幷びに新築落成廣告

本校漸次隆盛の域に進み從來の校舍非常の狹隘と相成り候に付き今般高燥の地を卜し校舍を新築し略ぼ落成を告ぐ依て新入女生徒二十名の入學を許し且寄宿生三十名を募る精細の規則は附て承知あるべし○規則書御望みの御方は新橋日吉町八番地女學雜誌社へ宛て郵券二錢送附あれば直ちに發送すべし

東京麴町區飯田町三丁目三十二番地

明治女學校

發兌

九月。三日 十日 十七日 廿四日
十月。一日 八日 十五日 廿二日 廿九日
十一月。五日 十二日 十九日 廿六日
十二月。三日 十日 十七日 廿四日 三十一日

定價

一冊。五錢 郵税。一錢 (但府內無郵税)
十冊。四十八錢郵税。十錢 (同前)
半年分 一圓十七錢 府外は 一圓四十三錢
一年分 二圓卅四錢 府外は 二圓八十六錢

廣告

特別廣告は婦女に關する協會會合等の記錄を揭ぐるものにて一切無料とす但し紙面半頁分の廣告を掲する每に右雜誌十部の注文を要し以上半頁分每に十部增の割合と定む

一行 一回 (廿七字詰) 前金拾錢
同 三回以上 一割引
同 六回以上 二割引
十行以上一割引。二十行以上二割引。四十行以上三割引。但し不道德なる事物の廣告は謝絕す有益なる事物の廣告は社議の上無代價にて引受く女學關係の書籍は一部の寄送を乞ひ相當の廣告をなし且つ本誌に批評すべし

WOMAN'S MAGAZINE.

"Jogaku Zasshi."

Price 5 *sen*. By post *yen* 1.43 six months, *yen* 2.86 per annum, in advance.
Edited and published by Y. H. Iwamoto, at The Jogaku Zasshi Office, No. 8 Hiyoshichō, Shinbashi, Tôkyô, Japan.

女學雜誌賣捌所

東京神田區淡路町嚴々堂○東京芝西久保櫻川町萬春堂○東京神田區雉子町開々社支店○同神田區佐柄木町東海堂○同日本橋區新銀町良明堂○同京橋區木挽町壹丁目萬字堂○同本鄕區元富士町盛春堂○同本鄕區春木町二丁目解明堂○東京本鄕四丁目文壽堂○橫濱住吉町角田屋貞○京都四條通小橋へ入澤集光堂○同三條通東洞院西へ入クリスチアンポード○大坂備後町四丁目岡島支店○仙臺國分町十九番地伊勢安雜誌部○宮城縣仙臺大町木村文助○尾張國名古屋本町石版舍○出雲國松江新町盛進堂○廣島縣大手町一丁目早速社○長崎酒屋町虎與號○江州彦根西內大工町新々堂○相州小田原緣町石壽堂○上州高崎田町煥乎堂○勢州松坂家里初枝

發行所 東京京橋區日吉町八番地
本局 **女學雜誌社**

持主兼編輯 巖本善治
印刷 森田豐

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY